

主婦、お年寄りらにボランティア

# 懐かし紙芝居披露

姫路、相生など播磨各地に住む主婦らでつくる朗読ボランティア「パレット」が十日、姫路市大塩町汐咲の老人保健施設「しおさきヴィラ」で紙芝居を披露した。



教室で培った朗読法で紙芝居を披露するメンバー＝しおさきヴィラ

## 朗読講座の成果生かし 姫路の老健施設

同グループは、神戸新聞文化センターが開く「朗読ボランティア講座」の一期生七人がメンバーで、昨年十月に発足。絵の具のように、それぞれが個性を持ちながら一つのものを目指そうと「パレット」と名付けた。月に二回、市内の福祉施設を訪れ、ボランティア活動を行っている。

同施設ではまず、メンバーの山本宏美さん(三九)が「寒いので、みんなで『春よ来い』を歌いましょう」と呼びかけると、全員が手拍子をしながらか大合唱。続いて、紙芝居「おさんぎつね」と「かさじぞう」を、登場人物の役柄になりきって語りかけながら披露した。

お地藏さんが傘のお礼に老夫婦宅を訪ねる「かさじぞう」のシーンでは、家に近づくにつれて行進の音頭を大きくするなど、表現の仕方を工夫。昔懐かしい紙芝居に、お年寄り三十五人はじっと聴き入っていた。